

「まちづくり懇談会」を開催しました

町民の皆さんの意見・提案を町政運営に反映させるため「まちづくり懇談会」を今年度は町内4会場で開催し、86名の方に参加していただきました。町長・町執行部と参加者が直接話し合い、地域が抱えるさまざまな課題や安全安心なまちづくり、町の将来について意見交換が行われました。懇談会でいただいた意見・提案の一部をお知らせします。



伊王野基幹集落センター

6月22日(月)

問

来年4月の公民館統合およびそれに伴う職員半減案に対し、地域の核が失われ過疎化に拍車がかかると強く危惧しています。充実した那須塩原市の公民館活動と比較しても、本町の公民館縮小には到底納得できません。町民に周知されないままトップダウンで決定するのではなく、広く住民の声を丁寧に関き、慎重に進めることを強く求めます。

答

公民館統合案は、役員不足による公民館の消滅を防ぐため、町が運営を引き受けて負担を減らす前向きな見直しです。組織は一つにまとめますが、各地区の施設や大切な活動は残していきたいと考えています。今後は皆さんの声を聞きながら事業を精査し、決して一方的に切り捨てることはありません。

問

中高生の自殺や不登校といった現状に、強く心を痛めています。子どもたちを健やかに育むためには、学校だけでなく、学校・地域・家庭の三者が一体となって協力することが不可欠です。地域全体で子どもたちを温かく見守り、育てていける社会の実現に向

答

け、今後も皆様と力を合わせて尽力してまいりたいと思います。

子どもの自殺防止は最重要課題であり、町ではSOS教育や相談体制の充実、関係者との連携による早期発見、ゲートキーパー養成を進めています。何より大切なのは、子どもが「地域で大切にされている」と実感できる環境です。日頃の挨拶や皆様の温かい眼差しが最大の防波堤となります。皆様と力を合わせ、子どもたちを守るまちづくりを進めてまいります。

芦野基幹集落センター

6月25日(木)

問

著しい人口減少と少子化に強い危機感を抱いています。昨年の出生数は60人台に落ち込み、若者の流出や未婚化が進む厳しい現状があります。雇用創出が容易でないことは理解していますが、県任せにせず、若者が少しでもこの町に残り、定着できるように具体的な対策を、町としてしっかりと講じていただくよう求めます。

答

人口減少の要因は、子どもの減少と高齢化による自然減、若者の町外流出による社会減

問

であり、特に20代の転出が大きな課題です。一方で本町は若年女性の増加により、県内で唯一消滅可能性自治体を脱却しました。今後は第8次振興計画に基づき、子育て・教育・住まい・働き方支援を進め、町の魅力を高め、若者が戻りたい、住み続けたいと思えるまちづくりに取り組みます。

消防団員の減少が進む中、山火事や地震など災害への備えとして、報酬見直しによる処遇改善、女性団員や若手団員の確保が必要です。特にタンク車を運転できる団員不足は喫緊の課題であり、免許取得補助や機能別団員の活用など柔軟な対応を求めます。防災イベント等を通じた啓発も含め、消防団維持に向けた町の考えを伺います。

答

団員確保に向け、定年延長や活動条件の見直しなど、制度の柔軟化が必要であると考えます。運転免許問題については、普通・AT免許で運転可能な車両への更新を進める一方、既存タンク車の運用課題も残るため、有効な対策を検討します。併せて活動PRやイベント等を通じ、消防団への理解促進と団員増加に取り組んでまいります。